

日販連通信

第 65 号
2013 年 5 月 6 日 発行

発行者：日本販売農業協同組合連合会
中塚 敏春

住所：〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館

電話：03-3375-6399 Fax：03-3375-6637

Eメール：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

凍霜害で壊滅的被害

長野県全域



雌しべが黒く枯れて、ほとんど着果していません。



枯れた市田柿の新芽(高森町)



南信州産直会(長野県松川町)の4人の梨生産者が今までに経験のない凍霜害で壊滅的被害を受けました。

4月は断続的に低温が続きましたが、県内で22日に発生した凍霜害による農業被害額が、ほぼ県全域にわたる38市町村で計16億4300万円にのぼりました。このうちナシ、リンゴ、柿などの果樹が15億6900万円(未確定)と推測され、被害はスイカやアスパラガスなどにも及びました。凍霜害被害額は1989年の39億5500万円が最大でし

たがこれに次ぐ規模とみられます。

南信州産直会の生産者片桐さんは「摘花作業や収穫は無いが、農薬は例年通りしなくてはいけない。収入が無いだけに生活費も大変です。梨の生産者はこれを機会に離農するのではないか」と顔を曇らせていました。飯伊農民組合で生協に出荷している二人の生産者も「今年は消費者に喜んでもらえる笑顔に会えない」と肩を落としています。

福島第一原発1号機を見る



白いテントが1号機原子炉建屋



亀田会長に案内される小松正之教授



手付かずの請戸港

震災、原発事故から2年が経過した福島を訪問しました。福島第一原発事故の避難区域が再編され、昼間の立ち入りが4月から可能になった福島県浪江町請戸港周辺を訪問しました。日中のみ帰宅が許されるようになっての初めての連休で、家の片付け、掃除に着手する姿も見られました。福島第一原発から20km 圏内の浪江町は事故の翌日朝に避難命令が出て、命がけで避難したとのことでした。

福島県農民連の亀田会長は「南相馬市小高地区から1年遅れて自宅に昼間戻れるようになったが、確実に1年以上の遅れになる。船や車、がれきは全く手付かずで、津波の片付けを今から行うという段階だから」と説明しました。

有機豚肉開発に向けて懇談



4月25日、あいコープみやぎのあいちゃん牧場で有機豚肉開発についての懇談会を開催しました。

日本ではまだ取り組みの無い有機豚肉について、JAS 有機制度と一般慣行の飼養との違い、離乳方法、餌などについて意見交換しました。参加した養豚農家の日向一郎さんは「将来を見据えて、新たな取り組みをみんなで力を合わせて取り組む意義は大きい」と語っていました。懇談会には株式会社ピオ・マーケットの南埜幸信氏、放牧豚を経営する高橋精一氏、あいコープみやぎの小野瀬裕義理事長、菊地利衛顧問が出席しました。

その後、高橋精一さんの放牧豚の視察を行いました。

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。 アドレス: info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp